南相馬市復興に向けた取り組み

～農業再生と地域活性化に向けて～

持続可能な農業を目指して

南相馬市 太田地区復興会議

事務局　奥村健郎

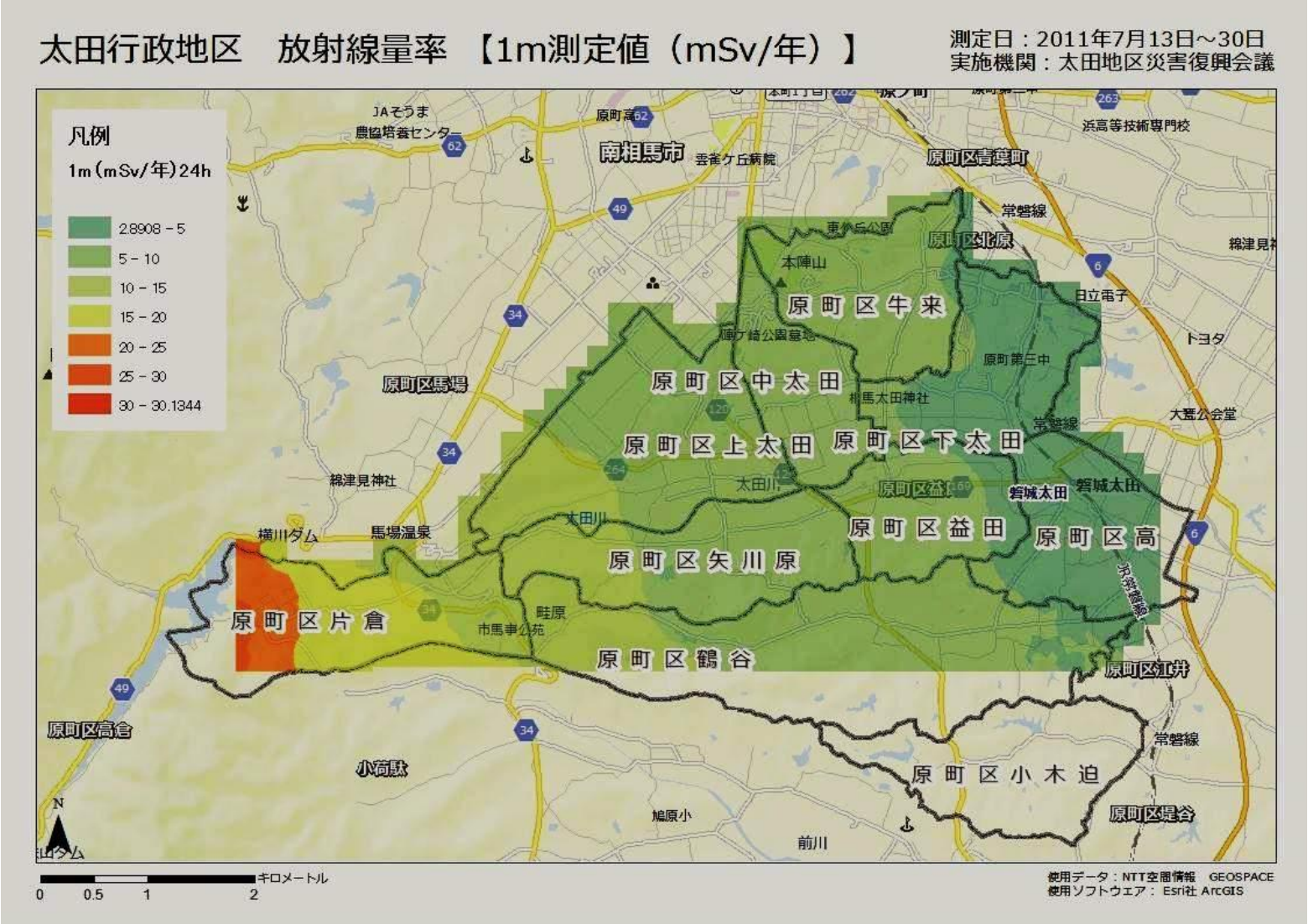
除染支援： 線量の正確な把握

とにかく細かく測定して記録を残すこと。
それがチェルノブイリの教訓です

しかし、太田地区内の測定地点は470カ所に及び、
住民が歩いて測って回るのは1日50カ所が限度。
⇒ そこで・・・

バギーとGPS付き線量計を使えば大幅に効率が上がる だけでなく、
荒れ地も走れるため、農家にとって切実な田畑や山林の数値も分かる。
データは蓄積され、除染前後の変化も一目で分かるようになる。

除染支援： 線量の正確な把握



太田地区の住民は2011年7月に詳細な、200メートルごとのマップを作り、自主的な除染もしてきた。

太田地区復興への取組み策定

2012年 4月 1日

■復興に向けた取組み

＝ H24年度以降において＝

- 地域住民の帰還に向けての除染支援計画策定実行
- 損害賠償における弁護団との仲介支援
- 帰還準備区域設定および警戒区域解除に伴う該当行政区支援
- 「相馬野馬追いの里」農業再生計画策定実行
- 再生可能エネルギーの計画実証

「相馬野馬追いの里」農業再生計画
“おひさまプロジェクト”

目　的

- 24年度、食用米の作付けは実施しない状況にある。それを踏まえ、土壌線量3,000ベクレル以下の水田において、除染状況の見通しに応じた短期・中期・長期の観点からさまざまな対策を実施する。

事業コンセプト

- 汚染状況に応じ対応も異なることから、除染計画における反転耕・深耕対象箇所において、ひまわり、菜の花栽培による植物除染を実施する。また、再生可能エネルギー導入を模索し循環型エネルギーに取組む。

具体的提案内容

- ひまわり・菜の花除染
- ひまわりは相馬野馬追行列を意識し沿道を中心に実施
- タネ→食用油もしくはバイオエタノール搾油
- 残渣→バイオエネルギー等へ転換（ハウス農家へのエネルギー供給）

5月12日
ひまわり植え付け

ひまわりロード御出陣風景

7月28日

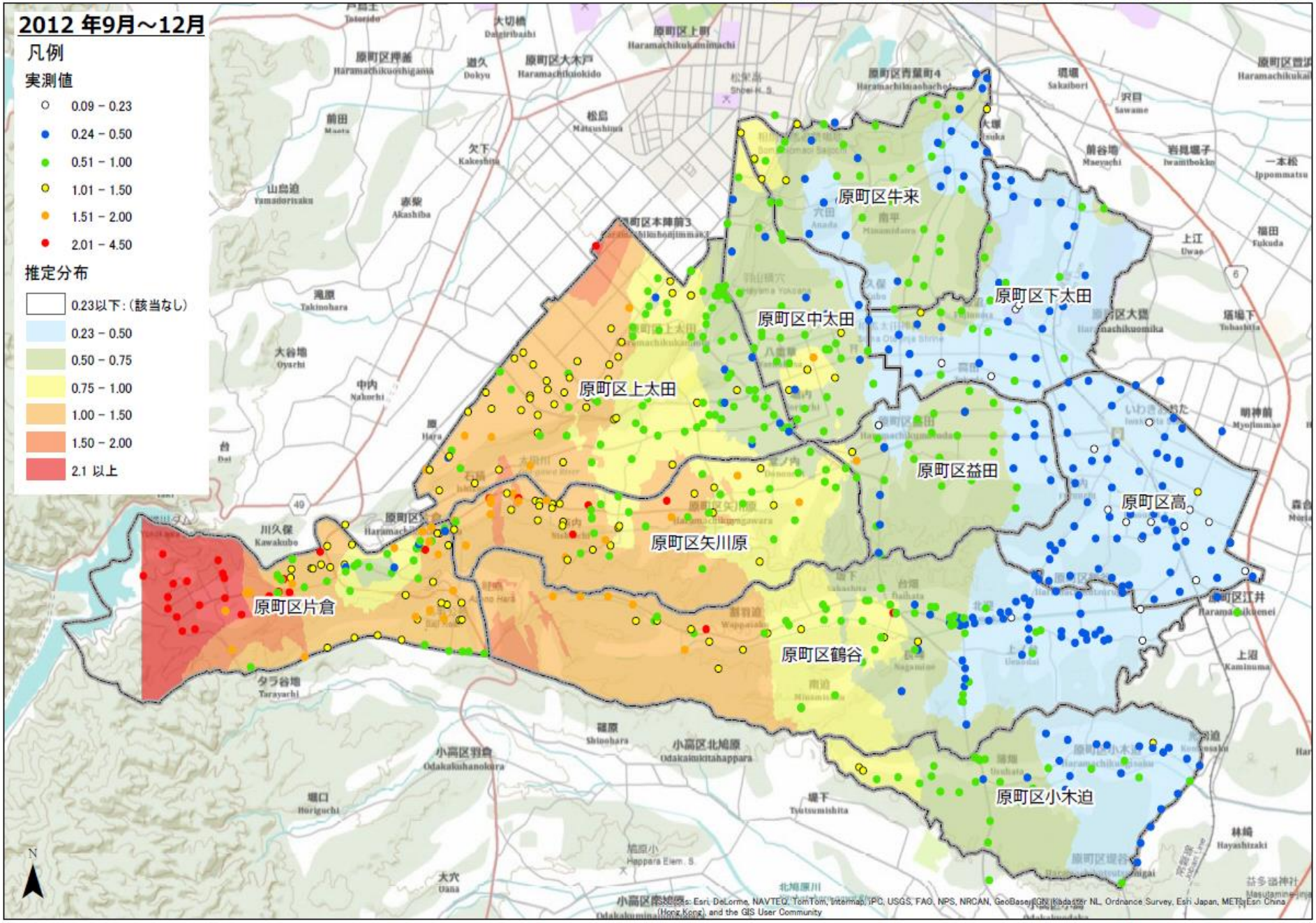
ひまわりの種収穫、残渣回収除染

太田地区放射線測定実施

9月29･30日

太田地区　空間線量率 【1cm 測定値（μSv/h）】

測定日：2012年9月 (片倉地区:12月)
実施機関：太田地区復興会議／太田地区区長会／太田地区まちづくり委員会



本マップは測定値とクリギング手法と呼ばれる空間統計の内挿補間を用いて作成されています。本分布図は絶対的な値を示すものではなく、測定値より推定される分布図となります。

使用ソフトウェア： ESRIジャパン ArcGIS

南相馬市復興に向けた考え方

1．まず農地除染と作付により農業の再生を目指す
（植物除染・土壌分別除染・一般作付け）

2．地域の資源、エネルギー、食料を活かし、
循環型で持続可能な街づくりを目指す
（食用油・BDF・バイオマス燃料等）

3．自然エネルギーを地域産業として根付かせる
ことを目指す

再生可能エネルギーで復興推進

農地と太陽光発電の共存による
農業再生と地域活性化

① ソーラーシェアリング（立体農業）

棚太陽光発電タイプ

■愛知県　豊田市　　デコポン栽培
（ソーラーシェアリング坪井第一発電所）

■「美濃賀茂エネルギーファーム」構想図
遮光率80%。シキミとサカキをポット栽培予定

○農業機械を使える架台高さ
○作業がしやすいロングスパン

■ 三重県　菰野町　タマリュウ栽培

② ハウス de ソーラー

■ JA全農＋富士電気（株）

神奈川県平塚市の営農・技術センター

■イシグロ農芸（愛知県田原市）

◎ オール電化　電照菊栽培
（重油を使わない）

◎太陽光発電・LED照明

http://www.asahi.com/eco/NGY201012010006.html

■かなん農場（大阪府南河内郡河南町）

クボタeプロジェクト

ビニルハウスには、屋根に太陽光発電設備、冷暖房にはパットアンドファン方式による空冷システム（水の蒸発による冷却メカニズムを利用した冷房技術の一つ）や木質ペレットボイラー（暖房）を備える

http://www.kubota.co.jp/epro/sun_vege_farm/2010_12.html

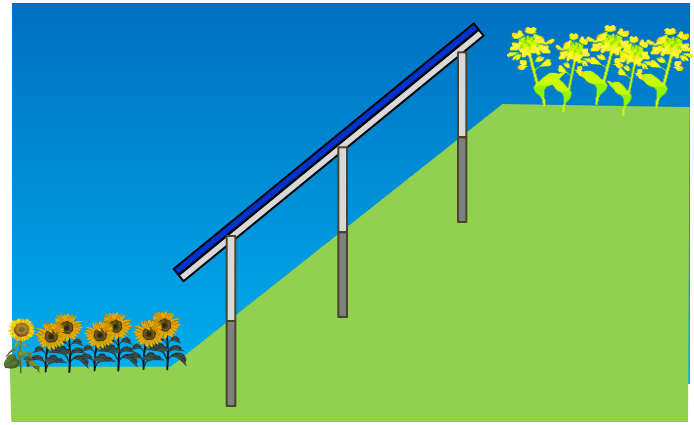
③ 周縁 de ソーラー

農地の法面や周縁部等を活かして太陽光発電

起伏に富んだ自然を活かす

ハウス周縁部の活用イメージ

・農業収入を補完するための太陽光発電
・農作業に影響がないよう十分に配慮する



農作物がつくれない法面を活用する

農地法面へのパネル設置イメージ

省エネ・新エネを復興に活かす

■ ソーラーシェアリング作物の特産品化、ブランド化

この地ならではの、農産品や特産品、花卉栽培などを活かす、つくる。

■ 復興に向けた都市との交流ツーリズム

復興に向けた取組みを共有するとともに、自然の素晴らしさや居心地の良い暮らしを体感